



彩の国さいたま

<管内関係機関・認定農業者等向け情報誌>

加須農林振興センターだより

発行 埼玉県加須農林振興センター 加須市不動岡 564-1

TEL : 0480-62-4771 FAX : 0480-62-1499

e-mail : g624771@pref.saitama.lg.jp

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0907/>



埼玉県のマスコット
「コバトン」、「さいたまっち」

2021「田んぼアート」in 行田～田植えイベントの復活！



▲ 田んぼアートの生育状況（7月19日）

昨年、新型コロナウイルスの影響により中止となった、行田市の「田んぼアート」の田植えイベントが、田んぼアート米づくり体験事業推進協議会主催により「古代蓮の里」（所在地：行田市小針2375-1）の東側の水田で実施されました。今年は、埼玉県の奨励品種「彩のかがやき」をはじめとした色彩の異なる4品種の水稲を使用して、「浮世絵」と「歌舞伎」を描いています。見頃を7月中旬～8月中旬に迎え、さらに稲刈りが始まる10月中旬まで色彩の変化をお楽しみいただけます。



▲ 田植えボランティアの作業風景

加須農林振興センターでは、多くの方々に農業や県産米に関心を持っていただけるよう、今後も本イベントの技術指導等に携わっていきます。（画像提供：行田市）

【お問合せ】 農業支援部 技術普及担当 TEL0480-61-3911

高収益農業を実現するほ場整備実証事業について

北埼玉地域は、古くから見沼代用水、葛西用水、羽生領用水など多くの用水開発が進められ、水稻の作付面積 8,280ha（令和元年）を誇る県内随一の穀倉地帯です。しかし、排水施設の老朽化や降雨量の増加等により湛水被害が生じるため、国では排水路の改修等を行う、かんがい排水事業「中川上流地区」を計画しており、この事業による、地域の排水状況の改善や水田の汎用化による高収益作物の導入などが期待されています。

埼玉県では国の事業に関連して、排水条件の改善により水田での野菜生産も可能であることを実証する「高収益農業を実現するほ場整備実証事業」を令和3年度から開始しました。

今年度は、営農者の意向を聞きながら、暗渠排水施設を中心とした基盤整備を行います。その後、令和5年度まで高収益作物の栽培を実践していただき、水田での高収益作物生産の実証を行ってまいります。

【お問合せ】農村整備部 県営事業担当 TEL0480-62-4582



■実証予定の農地



■近隣の汎用耕地

県営ほ場整備事業「荒木地区」の完了について

「荒木地区」は行田市北部の平坦な水田地帯に位置する、受益面積 43.8ha（水田：41.1ha 畑：2.7ha）のほ場整備地区です。

地区の西側には武蔵水路と見沼代用水が南北に流れ、地区の中央を新郷用水が東西に横切っています。

地区内の用水は見沼代用水の副水路から導水していますが、地区内の用排水路勾配が緩やかであるため、下流部では用水不足や排水不良が生じていました。また地区内の道路は幅 2 m 程度と狭いため、農業機械の通行も困難な状況でした。

このため「荒木地区」では、農地区画の大型化、農道の拡幅のほか、用排水路や暗渠排水の整備を行い、営農労力の節減や生産性の向上を図りました。

平成 24 年度に始まった当事業は、総事業費 6 億 2 千万円を費やし、まとまりのある形で農地を利用できるよう整備を進め、令和 2 年 3 月に完了しました。

今後、地域の担い手への農地集積が進むと共に、地域農業の体質強化や農業経営の安定化が図られていきます。



【お問合せ】農村整備部 県営事業担当 TEL0480-62-4582

農業版「事業継続計画（BCP）」を作いませんか？

「事業継続計画」（以下、「BCP※」）とは、台風や水害などの自然災害やコロナウイルス感染症の流行など、突発的な緊急事態に遭遇した場合に、経営資産の損害を最小限にとどめ、中核事業の継続や早期復旧を可能とするための計画のことをいいます。

職場や学校で行われる、防災訓練を考えると分かりやすいかもしれません。平常時に緊急事態を想定して対策を考えることで、実際に災害等が発生した場合にもスムーズに行動することができます。

日本は自然災害が多く、また近年ではコロナ禍の影響を強く受けていることもあって、多くの企業や組織がBCP策定に取り組んでいます。ただ、農業分野における策定は始まったばかりです。このため、加須農林振興センターでは今年5月、6月にかけ、県内で先がけとなる取組として、専門家（中小企業診断士）の指導によって管内農業法人がBCPを作成する際の支援を行いました。

令和3年度は農業法人等がBCP作成を希望して採択された場合に県の事業により専門家からの助言を受けることができます。これを機に経営の危機管理体制をより強固にしてみませんか？興味のある方は、以下のお問合せ先に御連絡ください。 ※BCP=Business Continuity Planの略

【お問合せ】農業支援部 新規就農・法人化担当 TEL0480-61-3911



BCP作成の状況

ロボット田植機（レベル2*）の実証試験を実施！

埼玉県スマート農業普及推進事業モデル経営体の「株式会社おおよ農園」（加須市北川辺地区）でロボット田植機（レベル2）の自動走行の実証試験を実施しました。

ロボット田植機は、監視者がほ場周辺にいる状態で、旋回も含めて自動で田植え作業を行います。最初にほ場の外周を有人で走行してほ場マップを田植機が自動作成することで、田植機が走行経路を自動計算、無人で田植え作業を行います。



ロボット田植機（無人仕様）による実証試験

一般的な田植えは、田植機のオペレータと苗補給などを担当する補助者がペアとなって作業をしますが、今回の実証では、同じ人員で田植機2台を使つての田植えができるかどうか実証しました。ロボット田植機と有人田植機を道路を挟んだ向かい合うほ場で試したところ、補助者がロボット田植機の監視を兼ねることで大幅な省力化が図れることが判明しました。また、田植機が作成したほ場マップはクラウド上に保存され、次回の田植から外周を有人で走行してほ場マップを作成する必要がなく、更なる省力化が可能です。

ただし、ほ場の最外周に植え付けする際には、安全性を考慮してオペレータが搭乗した上で自動運転する必要があります。

※農業機械の安全性確保の自動化レベル（農林水産省安全性確保ガイドライン）

レベル2：ほ場内やほ場周辺からの監視下での無人状態での自動走行

【お問合せ】農業支援部 技術普及担当 TEL0480-61-3911

RTK基地局による自動操舵が始まりました

行田市の7戸の農家が集まって組織された団体、「利根 RTK 基地局」では、令和2年度に、国と県の補助事業を活用して RTK 基地局を設置しました。

この基地局が発する位置情報の電波を受信することでトラクター等の自動操舵が可能になります。実際に自動操舵によるトラクターで耕うん往復作業の重なりを10cmに設定して、ハンドルから手を離して代かきを行ったところ、設定どおりに耕うん作業が行えました。

導入した農家からは、「作業が正確で疲労感が格段に少ない。耕うんや代かきや将来的には田植え機にも受信機を設置して使用していきたい」と話していました。



自動操舵による代かき（手を放しての運転監視）

「利根 RTK 基地局」では、RTK 基地局 1 基あたり 100 件の利用が可能のため、現在利用者を募集中です。利用が増えれば、今後さらに RTK 基地局を活用したスマート農業の進展が期待されます。

※RTK とは Real-Time Kinematic の略称で、地上に設置した「基準局」からの位置情報データによって、高い精度の測位を実現する技術のことです。

【お問合せ】 農業支援部 技術普及担当 TEL0480-61-3911

北埼玉地域農林水産業振興計画ができました！

新たな「埼玉県農林水産業振興計画」（令和3年度～令和7年度）に基づき、北埼玉地域で実施する農業振興の取組や指標を整理し「北埼玉地域農林水産業振興計画」を策定しました。

詳細については、当センターHPを御覧ください。

※<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0907/210729.html>

【お問合せ】 管理部 地域支援担当 TEL0480-61-3404

サツマイモの基腐（もとぐされ）病に御注意ください

近県で、サツマイモに大きな被害を与えるサツマイモ基腐病が発生しています。本病は感染した種いもや苗で感染が広がる可能性があります。本病の発生に注意し、もし発生が疑われる株を見つけた場合は直ちに当センターに連絡してください。

病気の詳細は当センターHPを御覧ください。

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0907/seisansya/motogusare.html>

【お問合せ】 管理部 地域支援担当 TEL0480-61-3404



次回第8号（令和4年2月1日発行）から当センターHPで電子データでの提供となります。引き続きの活用をお願いいたします。